

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(内田樹『寝ながら学べる構造主義』による)

問一 空欄

A

B

C

に入るもっとも適当なものをそれぞれ次の中から

選び、番号で答えなさい。

1 もし

2 つまり

3 あるいは

4 たとえ

5 なぜなら

6 しかし

問二 右の文章を要約しなさい(四〇〇字以内、冒頭一字下げ不要)。

二 次の中から二題選び、それぞれについてあなたがこれまで学んできたことを簡潔に述べなさい(二題につき三〇〇字以内、冒頭一字下げ不要)。なお、解答用紙の所定の欄に自分が選択した問題の番号を記入すること。

1 中古の文学について

2 中世の文学について

3 明治・大正の文学について

4 戦後の日本映画について

5 日本語のアクセントとイントネーションについて

6 日本の文字・表記について

7 日本語における位相差について

8 日本語教育における会話指導について

【出題意図】

問一 受験者の語彙力を確認するため。

問二 受験者の要約力を確認するため。

問三 受験者の知識および文章力を確認するため。

【解答例】

問一

A

 6

B

 2

C

 1

問二

ソシユールの言語学における重要な知見の一つは、「ことばとは『ものの名前』ではない」という点である。伝統的な言語観では、ことばの働きとは人間がものに名前をつけることであるとされ、ソシユールはこれを「名称目録的言語観」と呼び、ものと名前の結びつきには必然性がないと指摘した。名称は、言語共同体によって異なるものであり、自由に名付けること自体が人間の行為であるという考え方である。またソシユールは、名付けられる前にもものが存在するという前提を疑問視し、名前を持たないものは実際には存在しないと考えた。さらに、ことばの「価値」についても言及し、同じ語義を持つ言葉でも、含まれる意味の厚みや興行きのずれが誤解を生む要因となると示唆している。言語活動とは、非定型的で星雲状のような世界を人為的に切り分ける作業であり、名前を付けることで人間の思考の中に觀念が存在するようになるのである。(三八五字)

問三 省略